



新潟県ソウル事務所発

韓国レポート



2020.9.28

<第28回レポート>

韓国では観測史上最長の梅雨、そして台風3連続直撃！！

8月の着任当初、気づけば毎日毎日雨ばかり…。関係者の方々への挨拶回りでも、「梅雨が明けないですね」というのが決まり文句になっていました。光復節翌日の8月16日ようやく、観測史上最長54日間にわたる梅雨が明けました。夏に比較的降水量が多い韓国としても、この1か月の間に年間降水量の7割となる800～900mmの雨が降ったとされています。ちなみに、韓国における梅雨は平年で30日強、本県(北陸地方の平年値)だと40数日となります。

とりわけ、8月初めからの集中豪雨では、死者・行方不明者42名、被災5,100世帯に及び、堤防の決壊、土砂崩れなどが各地で発生しました。農作物関係では稲や野菜のほか高麗人参にまで、畜産関係では牛・豚・家禽類に被害が及んでいます。

また、集中豪雨によるダム放流に関しては朝鮮半島特有の課題もあり、2009年には南北両国を流れる臨津江の上流ダムにおいて、北朝鮮が無断放流したことにより、下流域である韓国側で住民が死亡する事故が発生し、南北はダム放流時には事前通知することで同意したとされていますが、今回も北朝鮮側からは事前通知なく放流されてしまったようです。

この長期にわたる梅雨と集中豪雨について、韓国気象庁では「気候変動による北極地方の異常高温現象が今年の東アジアの夏の異常気象を起こした原因」と分析しており、北極の寒気が南下することにより、太平洋高気圧が北に強く張り出せず、前線が北上・南下を繰り返し、東アジア各地で豪雨をもたらし、中国では6月から、日本では7月初めから、豪雨が続いたとしています。

また、その後、間を空けずに台風8、9、10号が3連続で朝鮮半島を直撃しました。韓国では済州島を始め、南部や日本海側を中心に被害が相次ぎ、死者・行方不明者3名、3,000件を超える施設被害、稲倒伏・落果等の農作物被害、30万世帯を超える停電が発生しました。また、韓国が不法占拠している竹島でも埠頭施設に被害があり、当面、観光旅客船の接岸を停止するようです。

韓国のテレビニュースでは連日、日本や北朝鮮の台風動向についても取り上げていました。

太平洋高気圧は、8月に入ると勢力を増して日本付近を覆い、9月に入っても勢力を保ったことから、韓国気象庁は「台風が北東(日本海側)に方向を変えず、まっすぐ北へ進んだ」としています。

日本だけではなく朝鮮半島、中国で長雨・豪雨が発生し、その後の台風も、この地域の気象状況の下で経路が決まっていくのを見ると、北東アジア地域の対岸諸国というのは、改めて近い存在なのだということが実感できるような気がします。



(写真)楊花漢江公園が豪雨により浸水している様子 8月6日午後撮影